

学校教育方針		中・長期目標			
定通の和を尊び、理想の追求を象徴する校章と校歌に示された精神をもとに、 1. 知性の涵養 2. 品性の陶冶 3. 心身の練磨を目的とする。		「心あたたかな学び直し」、「限られた時間を活かしての学び」、「働きながらの学び」を願う生徒が、安心して学習できる環境をつくり、社会の一員として生きる力を育成する。			
		今年度の重点目標			
		1. いじめや暴力を絶対許さない安心安全な学校をつくる。 2. 挨拶に始まるコミュニケーション力と社会性を育てる。 3. わかる授業・伸ばす指導を工夫して基礎的な学力を定着させる。 4. 地域に開かれ、地域とつながった学校をつくる。			
分野	重点項目	評価の観点	評価	成果と課題	改善策
学習指導	教育課程 授業の充実・改善	1 生徒の実態に即した教育課程の研究(新教育課程対応、学校設定科目の適正)	B	生徒数が減少し来年度から3年、4年の選択選択講座がなくなった。新たに進路を見据えた基礎教養、就職チャートを開設することになった。	新しい教育課程表になり、生徒の実態と進路をにらんで、つきたい学力の内容についてひき続き検討して行く必要がある。
		2 多様な生徒に対応した授業展開の研究(全職員の研究・協力態勢)	B	職員間の連携を通して授業展開の工夫を行った。個々に応じて対応が必要であり、今後も工夫が必要。	個別の対応であり、今後も研究・協力が必要。特別支援員の支援や助言は有効であり継続させたい。
		3 授業の再点検による充実・改善(教師間の研修、授業アンケートの実施)	A	授業アンケートの実施を通して充実・改善を図った。	様々な機会から見直し、より充実したものになるよう努める。
		4 声かけなど、学習意欲を喚起するための支援ができたか。	A	仕事や家庭、学校生活との両立が難しく、意欲を継続できるように細やかな支援を行った。	引き続き粘り強く支援していく必要がある。
生徒理解を深める	5	家庭環境や就業状況などを把握し、生徒の生活状況などを理解できているか。	A	三者懇談会、生徒との個別懇談を実施した。また特別支援員、学校医に相談し、的確な情報を得ることができた。必要に応じ保護者から来校してもらい、生徒の現状から今後についての保護者の理解と強力をお願いすることができた。	生徒の現状を常に把握し、家庭との連携を深め協力を願い、報告・連絡・相談を怠らないよう留意したい。職員間でも、生徒の「おや」と思う点について見逃すことなく予防的対応をしていきたい。
		交通安全指導の実施	6	通学方法を把握し、安全に通学する指導がされているか。また、毎日の生活にも安全意識を持った行動が出来るように投げかけているか。	B
生徒指導	安全・安心な学校づくり	7 学校生活を送るうえで望ましい態度やマナーを身に付けさせることができたか。(授業中のマナー、規則の遵守)	B	発達障害傾向の生徒がおり、養護教諭・特別指導員と相談しながら適切に対応できた。年々良好な授業態度が育っている。細かい部分での規則違反はあるが、日常の生活場面で指導し、これも年々よくなってきている。現金等の盗難はここ数年発生していないことは喜ばしいことである。	授業では学び直しの生徒が多数在籍しており、生徒が関心を示し意欲的に学習するための手立てを講じ、基礎学力を付けさせたい。当たり前の規則違反は、日常の生活場面で指導し、これでも年々よくなってきている。現金等の盗難はここ数年発生していないことは喜ばしいことである。
		8 お互いを尊重し、人権意識を育てるとともに、生徒の変化を見逃さずトラブルの未然防止に向けた取組を行うことができたか。	A	人権講話、全体集会、HR、授業など学校生活を通して人権感覚を養うことができた。1年次、2年次でSSTを実施し効果があった。少人数で静かな雰囲気の中授業を受けたいと願う生徒が多数在籍しているが、そのような生徒に影響を及ぼすような授業妨害もなく互いに仲間を思いやる気持ちが育っている。	ネットによる人権侵害はないが、引き続き予防に努めたい。生徒会主催の行事など全校参加の行事を通して、仲間づくりを行う中で、いじめのない雰囲気作りに努めたい。
基本的な生活習慣の定着	9	家庭での生活や学校生活が安定した状況になっているか。(生活実態調査の検討、遅刻・欠席指導)	B	規定間際まで欠席する生徒や、最低単位で卒業しようとする生徒の指導が課題である。単位制・多部制の弊害が出ているとも考えられる。	欠席・欠課・遅刻などに関する習慣がルーズで授業にも影響しているので、初心に返らせ時間遵守の気持ちを育てたい。特に卒業さえすれば良いという生徒が単位を落とし、卒業に関わる問題が出てくるので、家庭と強力しながらの指導が必要か。
		10 個々の生徒が抱えている課題を共有し、生活の安定や学習活動につなげる支援を行うことができたか。	A	特別支援員や担任との個別面談・三者懇談会、養護教諭の保健室での生徒状況把握、職員間の会話を通じて得た生徒の情報や課題を、職員全体で共有し対応することができた。基礎的な学習の支援を要する生徒については、特別支援員に強力をいただき成果をあげている。	専門的な立場で生徒の状況を把握し、職員と連携した生徒対応を実施するためにも、特別支援教育研究指定校への指定を引き続きお願いしたい。
進路指導	進学、就職指導の充実	11 希望調査を実施し、進路意識の喚起、進路希望の把握、適切な情報提供ができたか。	A	本年度あるいは前年度の求人表をまとめたものを提示し、進路希望調査を春と秋の2回実施した。生徒指導の資料として、結果を全職員に開示した。進路希望未定の生徒もおり問題があった。	目的意識を持たない生徒の意識喚起を促すためにアルバイトなどの就労経験を進める。
		12 進学・就職における面接・学科試験などの個別指導に対応できたか。	A	就職あるいは進学において、面接指導、過去問の提供し、卒業予定者全員の進路先が決まった。卒業生でアルバイト継続・家居など正規雇用以外の進路が多くなってきた。	「就職移行支援」の団体との連携を進めて行く。
	13 キャリア教育の推進	自己肯定感や他者と関わる力を育むため、教科指導や「総合的な学習の時間」等の中で、体験活動を経験させることができたか。	A	国語表現、就職チャート、キャリアデザインといった教科学習、及び総合の時間での進路講話や職業ガイダンス、あるいはソーシャルスキルトレーニングなどを通じて、包括的にキャリア教育を行うことができた。	次年度も引き続きこの方向でキャリア教育を進めたい。
教育活動	クラス運営 生徒会活動などの充実	14 個々の生徒に応じた履修指導や、クラス・学年でのSHR・LHRの効果的な活用ができたか。	B	個に応じた履修指導を行った。HR活動はクラス毎に工して活用できた。	引き続き、HRの効果的な活用方法を検討していきたい。
		15 保護者との連携を密にしたクラス運営ができたか。(通常の連絡・保護者懇談会の活用)	A	クラス担任を中心に、家庭との連携を取り合いながら進めることができた。	成人した生徒についても必要に応じて家庭連絡を取っていきたい。
		16 文化祭や学校行事に多くの生徒が参加し、計画・実行できるよう支援することができたか。	B	行事への参加は例年通り。生徒会中心に行事の計画ができた。	生徒が参加しやすい行事にするよう生徒会中心に計画をたてていく。
学校運営	円滑な学校運営	17 生徒会活動・部活動の充実が図られたか。	A	バドミントン部が個人で春秋大会へ出場できた。卓球部が個人として全国大会、北信越大会へ出場した。マンガ・イラスト部も文化祭へ参加し盛り上げた。	引き続き、個人種目は大会へ参加できるようにバックアップしていく。文化部には文化祭の中心になるよう支援していく。
		18 校務分掌の合理的・効率的な運営ができたか。(限られた人数で複数の分掌を持つ中での協力態勢)	A	校務分掌アンケートを取るなどして、各職員の希望と能力に応じた役割分担を目標としたが、各職員の協力により、スムーズに公分掌を行うことができた。	次年度のクラス数が未確定ではあるが、夜間部の運営が滞りなくできるような職員数の確保が必要と思われる。
	19 生徒データの管理と正確な資料づくりにより、校務と各指導を円滑に進めることができたか。	A	懇談会などを通して定期的に生徒状況を把握し、各指導にいかすことができた。	生活状況の変化に即して資料整理を行い、円滑に活用できるようにする。	
	20 本校に求められた役割を職員間で共有し、行事や学校運営全般にわたる適切な見直しや改善を進めることができたか。	A	生徒の実態に応じて各所で改善を進めた。引き続き継続していく必要がある。	きめ細かに対応することで生徒の生活力をより向上させる。	
開かれた学校づくり	21 学校公開の内容の充実を図り、わかりやすい情報を提供できたか。(外部の方々への理解)	B	学校公開と体験入学を同日に実施し、参加者にはおおむね好評であった。外部の方の参加はなかった。	HPを活用するなどして地域の方への情報提供を充実させる。	
	22 同窓会・教育振興会との連携強化を図る取組を行うことができたか。(求人の開拓などのお願い)	B	保護者・生徒と教職員による環境整備作業の実施、文化祭への保護者参加など、相互理解の基盤作りが定着してきた。	役員として参加していただいている保護者以外にも、広く情報提供・交流の機会を増やしていきたい。	